



東日本大震災復興チャリティー

湖南ギターアンサンブル



文化で遊興を元気に!

第16回さざなみコンサート

第41回滋賀県芸術文化祭参加事業



2011年 10月 22日(土)

午後6時 開演

栗東芸術文化会館さきら中ホール



ご挨拶

本日はご来場くださりましてありがとうございます。
湖南ギターアンサンブルは今年で結成22年を迎え、
この「さざなみコンサート」も16回目となります。
これだけ続きましたのも皆様のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

今宵、クラシックギターの音色をごゆっくりお楽しみいただければ幸いです。

主催：湖南ギターアンサンブル

URL：<http://homepage3.nifty.com/konanguitar>
毎週土曜日午後1時半から、守山エルセンター、第2
むつみ園で練習しています。

お問い合わせ先：鍋谷英明(代表) Tel/fax 077-552-9228

プログラム

司会・川人千暁

第1部

- 2重奏 メヌエット～「アルの女」第2組曲より（作曲 G.ビゼー、編曲 大谷環） 志村和彦・志村知子
 スペイン舞曲第2番（作曲 E.グラナドス、編曲 佐藤弘和） 小島信之・鍋谷英明
 レクエルド・ア・エスタンピオ（作曲 サビーカス、採譜 高橋道生） 高橋正樹・森田義秀
- 独奏 アストゥーリアス（作曲 I.アルベニス） 塚野研一
 ミ・インスピラシオン（作曲 パコ・デ・ルシア） 一井伸介
- 2重奏 ゴリウオーグのケイクウオーグ（作曲 C.A.ドビュッシー、編曲 柴田健） 塚野研一・鍋谷英明
- 3重奏 やさしく歌って（作曲 C.フォックス、編曲 江部賢一） 高坂勝・藤本久美子・辻井寿子
 未来へ（作曲 玉城千春、編曲 小胎剛・高坂勝） 諏訪サチ子・山口瑞代・武村順子
- 4重奏 となりのトトロ（作曲 久石譲、編曲 平倉信行） 小島信之・鍋谷英明・志村和彦・志村知子
 オブラ・ディ・オブラ・ダ（作曲 J.レノン&P.マッカートニー、編曲 佐野正隆）
 武村順子・藤本久美子・高橋正樹・内藤悟
- 笛・ギター・マンドリン・ベース 4重奏
 ハバネラと前奏曲から闘牛士～「カルメン組曲」より（作曲 G.ビゼー、編曲 一井伸介）
 「カルテットEです」 坂井孝之・一井伸介・村井教夫・辻井寿子

休憩

第2部 ギター合奏

- 大脱走マーチ（作曲 E.バーンスタイン 編曲 高坂勝）
 シクラメンのかほり（作曲 小椋佳 編曲 高坂勝）
 レット・イット・ビー（作曲 J.レノン&P.マッカートニー 編曲 高坂勝）
 ラルゴ（オブラ・マイ・フ）（作曲 G.F.ヘンデル 編曲 高坂勝）
- 3つのギターのためのコンチェルト第3楽章
 （作曲 A.ヴィヴァルディ 編曲 横尾幸弘）
- 踊り明かそう（作曲 F.ロウ 編曲 石田忠）
 八木節（作曲 日本民謡 編曲 末廣健児）
 ペルシャの市場にて（作曲 A.W.ケテルビー 編曲 坂本一郎・高坂勝）

出演者

- 1st 塚野研一（パートリーダー）、岡稔、小島信之、志村知子、中村功
 鍋谷英明（代表）、平岡フミ、山口瑞代
- 2nd 高坂勝（パートリーダー）、諏訪サチ子、高橋正樹、武村順子、東郷安弘、鳥山利晴、村井教夫
- 3rd 内藤悟（パートリーダー）、一井伸介（コンサートマスター）、志村和彦、玉木勝治
 藤本久美子、森田義秀、油谷由美子
- ベース 辻井寿子 フルート 坂井孝之

曲目解説

【メヌエット～「アルルの女」第2組曲より】「アルルの女」第2組曲のメヌエットは、アルルの女といえば、この曲と連想されるほど有名な曲ですが、実はビゼーの死後、ビゼーの歌劇「美しきパースの娘」の曲を友人のギローが転用、第2組曲として編曲したものの中の1曲です。フルートの独奏曲としても知られています。

【スペイン舞曲第2番】グラナドスのスペイン舞曲集はギターの格好のレパートリーとして、よく演奏されてきましたが、この第2番も二重奏の定番曲です。副題として「オリエンタル=東洋」と命名されていますが、哀愁が漂うせつなさを感じる曲想にはピッタリの感があります。(オリエンタルとはイスラムのことを指しています)

【レクエルド・ア・エスタンピオ】フラメンコの曲で、リズム形式はサパテアードで書かれています。歌と踊り、それにギター伴奏が加わるのがフラメンコの基本的なスタイルです。サパテアードは踊り手の靴(サパートス)の踏み鳴らしのリズムに合わせる伴奏の曲です。作曲者のサビーカスは天才的なテクニックと音楽性でフラメンコギターのコンサートスタイルを確立した第一人者です。

【アストゥーリアス】原曲はピアノ曲で、組曲「スペインの歌」の第1曲として収められたのが本来の姿ですが、現在ではギターで演奏されることの方が多くなっています。作曲者のアルベニス自身もギターで演奏されたこの曲を聴いて、「これこそ私の思い描いていたものだ」と称賛したと伝えられています。

【ミ・インスピラシオン】アレグリアスというリズムで、パコの初期の作品です。今では普通のDコードですので6弦がDに変調されています。ちゃんとシレンオもあって分かりやすい曲の一つです。親指だけのメロディーや、美しいトレモロの響き、そしてスケールと、フラメンコの要素がふんだんに入っています。

【ゴリウォーグのケイクウォーク】原曲は、フランスの作曲家ドビュッシーが1908年に完成させたピアノのための組曲「子供の領分」の第6曲です。ゴリウォーグは黒人の男の子人形のキャラクターの名前、ケイクウォークは黒人のダンスの一種で、おどけた感じの大変面白い曲です。

【やさしく歌って】今からちょうど40年前、1971年に作曲されたポピュラーソングです。1973年にロバート・フラックが歌って、大ヒットしました。日本ではその後某コーヒーの宣伝に使われましたので、聞き覚えのある方も多いかと思います。今回は江部賢一さんの重奏編曲に、ベースを加えて演奏します。

【未来へ】1998年に発表された女性2人のグループ「キロロ」のヒット曲です。中学、高校の合唱や、卒業式ソングとしても人気があります。

【となりのトトロ】物語の舞台は昭和30年代の所沢。ここに引っ越して来た11歳と4歳の姉妹が、森のクスノキに住む、もののけ(みみずくのお化け?)のトトロと仲良しに……。1988年4月に劇場公開されたスタジオ・ジブリ制作、宮崎駿監督の最高傑作アニメーション映画の主題曲です。

【オブラ・ディ・オブラ・ダ】1968年に発表されたビートルズ唯一のレゲエ・ソング(ジャマイカ起源のロック)です。タイトルの意味は『Life goes on(人生は続く)』です。何があっても人生を前向きにさせてくれるような楽しい曲です。

【ハバネラと前奏曲から闘牛士～「カルメン組曲」より】ご存じ、ビゼーの歌劇の組曲です。今年のテーマとして編曲してみました。今回はハバネラと闘牛士です。練習時間が全く取れないのが悩みですが、それぞれのスキルが頼りです。3回ぐらいの練習でここに持ち込むのも、失礼ですがそれでも結構物になっていることを期待しています。

【大脱走マーチ】近年、TVドラマ、CM、体育祭、マーチングバンド、サッカーの応援歌・・・どこかで聞こえる曲です。1963年制作のアメリカ映画の主題音楽「大脱走マーチ」。映画では、劇中で見事なアレンジが施され、シーンごと配置されていました。

【シクラメンのかほり】小椋佳作詞、作曲で1975年に布施明が歌い『第4回東京音楽祭』に出場した事がきっかけとなり大ヒットとなり、『第17回日本レコード大賞』と『FNS歌謡祭』グランプリと年末の音楽番組の大型タイトルを総なめにしました。曲名は「シクラメンのかほり」ですが、シクラメンにはにおいや香りもなく、この曲は自分の妻に捧げた愛の讃歌で、小椋佳は、妻の佳穂里さんは「シクラメンの君」であり、それならばこそ題名は「シクラメンのかほり (=佳穂里)」でなくてはいけなかったと解説されています。

【レット・イット・ビー】ポール・マッカートニーが、ビートルズが分裂状態になりつつあるのを悲観していた頃、亡き母メアリーが降りてきて「あるがままを あるがままに 全てを受け入れるのです」と囁（ささや）きました。これにひらめいて1970年に作ったのがこの曲です。日本で発売されたビートルズのシングルの中では最大のヒット作となりました。

【ラルゴ (オブラ・マイ・フ)】原曲は、ヘンデルの作曲したオペラ『セルセ』第1幕第1場の中のアリアです。ペルシャ王セルセによって歌われ、下降および上昇旋律を組み合わせた、伸びやかな明るい旋律線を持っています。今日オペラはほとんど上演されませんが、この曲は美しい小品として愛されています。

【3つのギターのためのコンチェルト第3楽章】原曲は、イタリア・バロック音楽の巨匠A. ヴィヴァルディの協奏曲集「調和の靈感」作品3より、「2つのヴァイオリンのための協奏曲」第8番の第3楽章です。一昨年のさざなみコンサートでは、第1楽章を演奏しました。J.S. バッハは、この曲をオルガン協奏曲第2番に編曲しています。

【踊り明かそう】1964年、オードリー・ヘプバーン主演のミュージカル映画「マイ・フェア・レディ」の中で歌われる、一番有名と言って良い曲です。

【八木節】酒樽を叩いて、笛や鉦（かね）を加え「アアーさても一座の皆様方よ、わしのようなる三角野郎が…」の唄い出して賑やかに始まる上州地方の民謡です。これをもとにマンドリン・オーケストラ用に作られたものを、ギター用に編曲し、ボンゴやクラベス等を加えて、賑やかに陽気に表現します。

【ペルシャの市場にて】イギリスの作曲家ケテルビーが作曲した管弦楽による情景音楽作品です。ケテルビーの作品の中で最も有名な曲であり、中東の大国ペルシャの市場の風景がノスタルジックに表現されています。